

健康で心豊かな地域づくり

# たかす

第153号

平成26年3月20日



千種町鷹巣自治会



ある本を読んでいると、標題のようなテーマの論説に出会いました。無痛分娩（ムツウブンベン）ではありません。まさにムツウブンメイなのです。

現代の世相を総称して『豊沃の時代』だとか『物質文明の時代』だとか言われていますが、大阪府立大学森岡正博教授によれば、現代を『無痛文明の時代』と評価されております。その一部を抜粋してみますと

○私たちは人生のなかで、つらいことや苦しいことになるべく出会わないようにと願っている。  
 ○そもそも文明の進歩とは、苦しいことやつらいことになるべく会わないで済むような社会を作り上げていくことだった。  
 ○そして今、モノに囲まれ苦しみから遠ざかり、安定した生活

を手に入れ、気持ちのよいことを沢山経験できるようになった。  
 ○それなのに、心の底にはぼっかりと空洞があいている。気持ちはいいのだけれども「よろこび」がない。

○誰もが心のどこかで、このことに薄々気付いている。しかしそのことを考え始めると何か怖くなる。足元が崩れていってしまふような気がして不安になる。だから人々はそこから目をそらすとする。

○さいわい、この社会には目をそらすための手段が沢山用意されている。手元にあるテレビのスイッチをつけて、お笑い番組に没頭してもいいし、パチンコ、カラオケ、グルメ、恋愛遊戯など、様々な娯楽に浸って自分を忘れることができる。  
 ○そうやって、苦しいことやつらいことからどこまでも逃げ続けていく仕組みが、社会の津々浦々にまで張り巡らされている。

そんな文明のことを、私は『無痛文明』と呼んでいる。  
 ○日本はアメリカ合衆国と並んで、この「無痛化」のための仕組みが、世界で一番発達した国なのだ。

○『無痛文明』は私たちを眠らせて、大事な問題を考えさせないようにする。それと引き換えに目の前の苦しみを取り除き、快楽と快適さを与え、一旦手に入れた気持ちよさをもう二度と手放せないようにさせる。

○しかし、その結果どうなるのか？人々は今生きているという実感を少しずつ失っていき、「深いよろこび」を感じる力を決定的に奪われてしまう。そして、「気持ちいい」のだけれども「よろこび」がないという状態になるのである。

さてさて、皆さんはこれをどうお考えになりますか？よしとされるか、このままではダメ人間になってしまふ——とされま

## 鷹巣は、いま？

### 自治会告知板

一年を振り返って

鷹巣自治会長 村上 廣 恭

この一年間、本当にお世話になり有難うございました。  
 自治会内にとどまらず多くの方々にご協力、ご支援を賜り今日を迎えることができ、こんな嬉しいことはございません。心から感謝申し上げる次第です。

今、一年の私の行動を振り返ってみますのに、やって良かったと思うことと、逆に反省する中に多くの課題も見えてきました。課題は次へ飛躍のためのステップ乃至はヒントと考えられます。ある時の講演会で耳にした言葉ですが、「国に政策あり、地方に対策あり」と。まさにその通りだと思えます。

鷹巣の現状をどう乗り越えるか？鷹巣のことは鷹巣の人が一番よく解っているわけで、問題の解決には自分たちで考える、一人でも多くの人が集まって知恵を出し合い善後策を練る、そして国・県の制度は使えるものは利用させてもらう…等の対策を考えることが大切だと思えます。作られた制度は時として地方の現状にそぐわない場合もあります。その辺はよく検討して活用しなければならぬでしょう。

鷹巣の現状はというと、全国の村の状況と比較してみると、例外ではなく瀬戸際に立っているとあります。

しかし、鷹巣は今、新しい芽吹きが始まったと感じています。活性化委員会による跡地利用の計画が進む中で諸々の事業が展開しつつあります。

更なる成長発展を祈って、新役員さんにバトンを託したいと存じます。私自身鷹巣を愛する一人として、鷹巣の『お宝』を発見発掘するために、今後とも尽力したいと願っております。

### 活性化委員会誌

二月二三日（日）

徳島県勝浦郡方面視察研修

○午前七時一〇分土井発

○参加者二十三名

男十四名 女 九名

市民局 鎌倉さんを含む

○淡路島を経て勝浦郡勝浦町坂本 旧坂本小学校へ向かう。

○農村体験宿泊施設『ふれあいの里さかもと』として跡地利用されている。

○勝浦町全域で本日二月二三日

（日）から四月六日（日）まで

『ビッグひな祭り』が開催されるといので、初日のこととて大変な賑わい。

○ここで昼食を摂る。（裏面へ）



○昼食後、運営委員長さんから坂本小学校跡地利用として立ち上げた「ふれあいの里さかもと」の運営状況などについての説明を聞く。

\*平成十四年に国・町からの一億八千万円の助成金で旧校舎の増改築と付属施設の整備を行ったとのこと。

\*運営委員会（最初は二十数人、現在は十六人）を組織し交替で日々の運営にあたる。

\*一泊二食付き六、三〇〇円宿泊は最大三六名収容可。

\*利用客年間一、二〇〇人前後、売上は年間四、〇〇〇〜五、〇〇〇万円だとか。

\*従業員は手空きの人を時給六七〇円でその都度必要な人数だけを確保する。

\*ここは蜜柑農家、高齢化が進み急斜面での作業は不可能になりつつあるとのこと。

（考えられないほどの急斜面にへばりついたようにして点々と家がある）

\*食事も宿泊も予約制。

○説明を聞いたあと、施設内を参観、設備がよく整っているのに驚く。

○この後、次の訪問地 勝浦郡上勝町へ向かう。

○上勝町立旭小学校を『山の楽

校』の名称で跡地利用されている様子を見学する。

○大学生をターゲットに年間三、〇〇〇人ほどを受け入れている。

○一泊四、〇〇〇円、団体は二、八〇〇円。

○調理はアルバイトのお手伝いさん（七割）による。あと三割程度が自炊で賄う。

○林業体験の場、癒しの場として、利用者の目線で施設の整備を行っている由。

○阿波杉の間伐材を利用した『てるぺんの不思議な椅子』を考案し、これを使つての遊びを通して、豊かな森を残すための環境づくりにつながる取組みをしているとのこと。

○帰りは勝浦町の中心部にある人形文化交流館で開催されている『ビッグひな祭り』を参観しました。

**私に出来ること**

活性化委員会委員

春名 美奈子

早いもので、東小学校が閉校になって三年になります。

その間、跡地利用を進めるにあたり真剣な話し合いを重ねながら、私でも何か出来ることはないだろうか？と自問自答しつ



つ南がゆい日々を送っていました。

そんな時、私の周りの熱い思いをお持ちの方たちに支えられ、私なりに出来ることを見つけました。それが

○ふれあい喫茶

○炭焼き窯作り

○ドクダミ採集

などの活動でした。

『ふれあい喫茶』は、一〇〇円のやりくりは大変です。でも来て頂いた方から「有難う！」と笑顔で言われると、こちらこそ「有難うございます！」とスタッフみんなが笑顔になれます。

『炭焼き窯作り』は大勢の方々に応援していただき、いい炭が焼けますようにと祈っていたところ、天井の甲が落ちて失敗（笑）、誠に残念ながら春になっての手直しを待つことになりました。ご存知のように炭窯作りは、この前にくなられた森井久男さんのお知恵を拝借し、金本悦夫さんを中心にした活性化委員会の取り組みとして、有志の方々のご協力を得ながら今日の日を迎えた次第です。

昨年の暑い夏の盛りに、窯の石拾いに川内やゴルフ場へと何回も足を運びました。私が一つ持つところを男の人は二つ三つ

持って運ぶ。木を切り出して窯の上に屋根をつける。ウンボーで山を削り窯場や道を整備する等、皆さんのお知恵とパワーには驚きと感謝でした。夏にはこの炭でバーベキューが出来たら最高！炭窯作りはもう一息というところまで来ております。

皆様の一層のご協力を得て、立派に成功させてください。お願いします。

ドクダミ採集 これは鷹巣で採れたもので大変好評です。今のところ単価は安いですが、実績を見ると、確実にプラスの事業であることが解りました。販売については町外の方二名から年間通じての注文を聞いております。六月と九月の二回集荷を予定しております。どうぞ協力頂いてより多くの集荷をお願いします。

以上、三つの活動報告をしました。ご存知のように、他にもいろいろな活動をみなさんが懸命に頑張ってくださいませ。

難しいことは出来ません。活性化委員会の委員だからするのでもありません。

この鷹巣で少しでも生きいきと笑顔で生活して行きたい……だから……いつ？今でしょ！今なら間に合う！今しかない！

**文芸欄**

待ちに待った春。わくわくと胸躍る春がすぐそこに……

それにしても異常気象としか言えない今年の冬の天候。空恐ろしくなってきましたよね。

ところで、編集子も白萩の皆さんに仲間入りさせて頂いた。宜しく……。

白萩句会 (二月分)

雪の下野菜の甘さ 森 井 三千代 蓄へり

白残る初音の遠き 森 井 久江 狭暮し

鯛焼きの列に並びし 金 本 百々子 大男

八十路きて朝へ繋ぐ 金 本 勉 除夜の鐘

(三月分)

朝(あした)

佐保姫や二月堂より 森 井 三千代 罷り越す

活気づく音高なりし 森 井 久江 春の川 歩くたび一步の重き

春の雪 金 本 百々子 雨重ね末だ目覚めぬ

雪柳 金 本 勉

